

# 土砂災害・水害へ 備えましょう

～6月は土砂災害防止月間～

梅雨・台風の季節がやってきました。昨年は国内でも度重なる集中豪雨で尊い人命や財産が失われ、土砂災害が市民生活に与えた影響は多大なものでした。

土砂災害の多くは雨が原因です。降雨量が1時間に20ミリ以上、もしくは降り始めてから100ミリ以上になったら、十分注意する必要があります。また、集中豪雨は梅雨の終わりごろによく起こります。突然、大量の雨が降ることもあり、予測が大変困難です。急に警報が出されることもあるので、気象情報や雨の降り方に十分注意してください。

特に、土石流や地すべり、がけ崩れなどの危険箇所の近くに住んでいる人は、早めに避難することを心がけてください。

## 避難時の心得

- 二次災害防止のため、電気のブレーカーやガスの元栓を確認する。
- 単独行動は危険、家族や近所の人と行動する。
- 当日分の食料や飲料水は、できるだけ自分で持参する。
- 浸水開始後の避難は、途中の道路冠水等により、逆に危険なこともあるので、無理な避難はせず、建物の2階や3階で待機する。
- 道路が冠水してからの車やバイクによる避難は危険なので避ける。

各家庭でテレビやラジオ、サイレン音などの情報に十分注意し、避難勧告や避難指示が発令されたときは、速やかに避難しましょう。

### ●避難勧告とは

災害が発生した場合やそのおそれがある場合に、市が発令し、その地域の住民に対して避難を勧めたり促したりします。

### ●避難指示とは

避難勧告からさらに状況が悪化し、災害による危険が目前にせまっている場合に市が発令します。避難勧告よりも強制力が強いものです。

# 地域で高める防災力



市内各地で行われる防災訓練▲



## 自主防災組織

近年、世界中で前例のない大きな地震が続けて発生しています。また、台風や集中豪雨の回数も増え、毎年各地に水害をもたらしています。こうした災害は、いつ起こるかかわからないことから、災害が発生しても適切に対応できるよう日頃から災害に対する備えが必要です。今回は、地域住民が連携して防災活動を行う「自主防災組織」についてご紹介します。



▲昭和28年に発生した多羅尾豪雨で倒壊した家屋



▼阪神・淡路大震災で倒壊した家屋

## 大規模災害ほど 重要になる地域の力

平成7年に発生した阪神・淡路大震災や、平成16年に発生した新潟県中越地震では、生き埋めになったり建物等に閉じこめられた多くの人が、家族や地域の人のよって救助されています。

大規模な地震や風水害等の災害が発生した場合、市消防署など防災関係機関は、全機能を使い活動を行います。しかし、同時に多発する被害、道路の損壊、電話の不通、ライフラインの停止などの悪条件が重なる時、その活動にも限界があります。

そのようなとき、被害を最小限に抑えるためには、地域における助け合いが欠かせません。また一人ひとりが活動するのではなく、地域の皆さんが隣近所で声を掛け合い、組織的に活動することが必要です。

地域の事情は地域の皆さんが一番良く知っています。避難や救助活動が一刻を争うときに、住民同士が連携・協力し合って、地域の被害を最小限

に抑えることができる「自主防災組織」は、非常に重要な役割を担っています。

## 地域のネットワーク は最大の防災力

自主防災組織とは「自分たちの町は自分たちで守る」という趣旨で、主に自治会や町内会で構成される組織のことをいいます。

防災活動を行う上で、地域の強いネットワークは非常に大きな力となります。地域のネットワークがあれば、いち早い救出活動や、応急手当、避難時の誘導などができるほか、安否の情報をつかんだり、自治体からの情報が人々に伝わりやすいというメリットもあります。

また、平常時は、地域の事情に合った災害時に備えての防災訓練や、広報活動などを行いながら地域の防災意識を高めることができます。

## 高まる防災意識

地域の方による自主的な防災組織は以前からありました

## 防災というまちづくり

市内では、万々に備え、いろんな形で防災活動を展開されている自主防災組織があります。活動中の組織の方に防災活動についてお聞きしました。

### 災害が少ない地域だからこそ日頃の意識が大切



下山区  
自主防災組織  
会長  
浅野 利治さん

各地で起こっている災害の報道を見ると、日頃の訓練の大切さを痛感します。

私たちの地域は幸いなことに今まで大きな災害がありません。しかし、将来何が起こるか分かりません。いざという時に何をすれば良いのか知っておく必要があ

ると思います。そんな思いで毎年、区民全員を対象に、避難訓練や消火訓練をはじめ、体験等を取り入れた「総合防災大会」を中心に活動を展開しています。

防災活動で大切なことは、住民の意識だと思っています。「なぜ実行しなければいけないか」ということを伝えながら、「地域としてやっておかなければいけないこと」を行うことが防災力の向上につながると思います。

防災はまちづくりの一つです。防災活動をする事によって、地域の団結力が上がります。それが有事の

際に生きてくると思います。これからも、万一の時にスムーズに動けるような組織をめざし活動を展開していきたいと思っています。

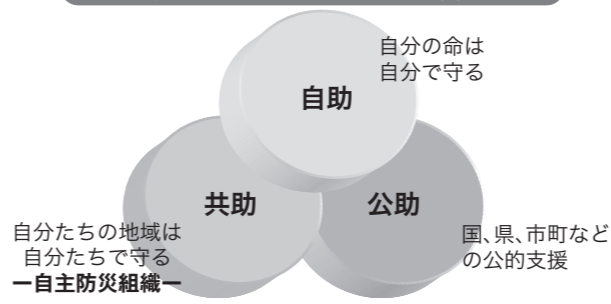


▲多くの方が参加する下山区総合防災大会

## ささえあう関係づくりが地域の防災力を高める

地域の皆さんが連携してこそ災害に強いまちづくりができます。自主防災組織をより身近なコミュニケーション活動の一端として位置づけながら、そこで暮らしている皆さんが協力し合い、地域防災活動をすすめることが、安全安心で住みよいまちにつながります。

災害時には、自助・共助・公助の連携が大切



が、多くの尊い命が失われた平成7年の阪神・淡路大震災以降、全国各地で自主防災組織に積極的に取り組まれるようになってきています。市内の組織率は、今年4月で68.3%です。年々増加しており、現在組織作りを進めている地域もあります。全国、滋賀県の平均に比べるとまだまだ低い状況です。

市では、こうした状況を踏まえ、自主防災組織推進のための研修会や防災リーダーの育成など積極的に支援を行っています。